

砂の彫刻 テーマは「祝」

八学短大生 白浜海岸で制作



協力して砂の彫刻を制作する学生たち

八戸市の八戸学院大学短期大学部(外崎充子学長)

は28日、同市の白浜海岸で砂の像をつくる「砂浜彫刻実習」を行った。幼児保育学科の1、2年生約200

人が参加し、仲間たちと協力しながら思い思いの作品をつくり上げた。

実習は学生の仲を深めるとともに、幼児教育で表現力や協調性の向上に役立つとされる砂遊びに親しもうと2006年から実施。今年が同市の市制施行88周年と、同短期大学部を運営する学校法人光星学院の創立60周年に当たることから「祝」をテーマに据えた。抜けるような青空の下、14班に分かれた学生たちは波打ち際近くで掘り起こした砂を海水で固めて造形。シャベルで細部を削ったり集めた貝殻や海藻で飾り付けたりし、約3時間かけて卒業証書やウディングケーキの砂像を完成させた。

大きな「笑顔」の周りに「祝」から連想した校章やタイをつくった2年生の若沢瑞穂さん(19)と和田市は「みんなで協力して作品を完成させることができ、素晴らしい思い出になりました」と笑顔。砂のウディングドレスを制作した2年生の中村綾香さん(19)は「八戸市は「将来子どもたちと砂遊びをするとき、今日つくったドレスの写真を見せてあげたい」と声を弾ませた。

(工藤俊介)